

# 角倉一族とその時代

森洋久 (国際日本文化研究センター准教授) 編

2015年6月刊行予定

▶ A5判・600頁／定価: 本体 8,800円 (税別) ISBN978-4-7842-1797-7

了以・素庵による朱印船貿易、高瀬川・保津川・富士川の開削——、近世角倉一族は大商人・事業家として広く知られている。しかし「角倉」は京都・嵯峨の地での土倉・酒屋業に由来すること、本姓は吉田で一族の本流は医家であること、またその一族が美しい木版摺刊本・嵯峨本の出版、和算の発展に果たした文化的な功績、あるいは幕臣としてのあり方は思いのほか知られていないだろう。

本書は現代の角倉イメージにとらわれず、文化・技術の総体の中で近世の吉田・角倉一族の業績を俯瞰的に検討。多彩な分野の研究者のみならず、近世の技術の継承者たる職人・技術者も含む26名の論考を収録する。

## ● 予定内容目次 ●

### 第一部 吉田・角倉家の系譜

- 第一章 はじめに—本書のめざすところ [森洋久]
- 第二章 角倉了以・素庵の人物像 [若松正志]  
—近世～近現代に強調された側面
- 第三章 土倉としての角倉 [河内将芳]  
—角倉吉田と「嵯峨土倉中」
- 第四章 角倉家と公家・武家・寺社との関係 [河内将芳]  
—中世における
- 第五章 幕府上方支配における幕臣・京角倉家と嵯峨角倉家 [菅良樹]

### 第二部 吉田家の医業

- 第一章 近江の吉田家と京都進出の仮説 [奥澤康正]
- 第二章 医家吉田家の家系図と人物像 [奥澤康正]
- 第三章 患者としての角倉了以と素庵・光好の病 [奥澤康正]
- 第四章 医業と実業を営んだ [奥澤康正]  
吉田・角倉一族の人びとの平均寿命の比較
- 第五章 吉田称意館が所有した医学関係書 [奥澤康正]
- 第六章 嵯峨医学舎 [奥澤康正]

### 第三部 社会基盤と角倉

- 第一章 土木技術  
高瀬川 [福本和正] 資料紹介: 高瀬川の発掘調査成果 [鈴木久男] 菖蒲谷池隧道 [福本和正] 森幸安の地誌・地図に記された角倉関連情報 [辻垣晃一] 穴太衆積み [粟田純司] 洛西・嵯峨野の庭園とその技法 [金久孝喜]

### 第二章 水運

保津川下り船頭の操船技術と精神—角倉伝来の技術を継承する保津川船頭の仕事から [豊田知八] 保津川下り—江戸時代に観光としての保津川下りはあったのか [上林ひろえ] 嵯峨嵐山の薪炭商小山家について [鈴木久男] 富士川舟運について [石川武男] 近世オランダにおける水運事業と測量 [中澤聡] 御土居藪と角倉与一 [中村武生]

### 第四部 海外貿易と船の技術

- 第一章 清水寺の角倉船絵馬 [坂井輝久]
- 第二章 角倉家と朱印船貿易 [佐久間貴士]
- 第三章 了以と素庵父子の生涯 [葉山美知子]  
—安南貿易と治水事業を軸にして
- 第四章 朱印船時代における「日本前」船と南シナ海の造船事情 [金子務]

### 第五部 算術


- 第一章 『塵劫記』から和算へ [小寺裕]
- 第二章 吉田光由と続く算学者 [鳴海風]
- 第三章 近世の暦と天文学 [小林龍彦]
- 第四章 西洋数学と和算 [森洋久]

### 第六部 嵯峨本と古活字

- 第一章 嵯峨本の特徴と魅力について [林進]
  - 第二章 嵯峨本の世界 [高木浩明]
  - 第三章 嵯峨本 謄本 [伊海孝充]
  - 第四章 〈嵯峨本〉以前の古活字版について [森上修]
- あとがき／研究発表一覧

## 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723  
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	角倉一族とその時代		本体8,800円(税別)	ISBN978-4-7842-1797-7
お名前		tel			書店番線印
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				
本書HPのQRコード					

## ※京都 高瀬川 角倉了以・素庵の遺産

石田孝喜著

京都の高瀬川は江戸時代初期、角倉了以・素庵父子によって開削され、京都の中心部と伏見港を結んだ10.5キロメートルの運河。歴史に埋もれた史料をねばり強く探索し、高瀬川の流れとともに研究を続けてきた著者が、運河開削の歴史をたどり、舟入や橋の変遷など、多方面から歴史と文化のすがたを描く。図版多数。

▶A5判・250頁／本体2,200円(税別)

ISBN4-7842-1253-1

## 朱印船貿易絵図の研究

菊池誠一編

17世紀の日本と東南アジアの交易や、ベトナムの港町ホイアンに存在した「日本町」の様子を描いた二つの絵図、名古屋市情妙寺所蔵「茶屋交趾貿易渡海絵図」と、新出史料である九州国立博物館所蔵「朱印船交趾渡航図巻」。この二つの絵図の精彩なカラー図版にくわえ、美術史・歴史学・考古学など多彩な研究者による6篇の論考を収録。

▶A4判横綴・104頁／本体7,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1712-0

## 徳川社会と日本の近代化

笠谷和比古編

19世紀のアジアにおいて、日本が欧米列強の植民地とならずに近代化を達成したのは、それらに互しうだけの力を蓄えていた徳川日本の文明史的力量に着目せざるをえないであろう。徳川社会はどのような力powerを、いかにして形成したのか、多分野の研究者の書き下ろし論文25本により総合的に究明する。

▶A5判・730頁／本体9,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1800-4

## 住友の歴史[全2巻]

朝尾直弘監修／住友史料館編

近世初頭から銅の精錬を業とし、その後金融・貿易なども手がけ、近代の財閥につながる豪商の典型である住友の歴史をわかりやすく紹介。連綿と受け継がれる住友精神の源泉がここにある。

上巻▶46判・286頁／本体1,700円(税別)

ISBN978-4-7842-1703-8

下巻▶46判・322頁／本体1,700円(税別)

ISBN978-4-7842-1762-5

## ※京の鴨川と橋 その歴史と生活

門脇禎二・朝尾直弘編

歴史都市京都のシンボルの存在である鴨川とそこに架かる橋について、平安京以前から昭和まで、各時代の様子を具体的に明らかにし、人々の暮らしの中でどのような意味を持っていたかを探る。

▶46判・250頁／本体2,200円(税別)

ISBN4-7842-1082-2

## 近世の禁裏と都市空間

岸泰子著

禁裏が関係する信仰や儀礼の場・空間の特性に注目し、都市を基盤として存在した禁裏、禁裏によって形成・維持された都市、という両側面からなる近世京都の特性を中世・近代への展開も視野に入れて明らかにする。都市・建築史的観点から近世の天皇・王権のありかたにも注目し、天皇が表出する場の特性や天皇と民衆の関係性などにも言及。

▶A5判・320頁／本体6,400円(税別)

ISBN978-4-7842-1740-3

## 近世京都の都市と民衆

鎌田道隆著

思文閣史学叢書

著者が京都市史編纂所時代におこなった京都市内全域の旧家・会所・小社寺などの民間史料調査をもとに、戦国から幕末維新までの京都都市論を展開する。【内容】戦国期における市民的自治について／京都改造／初期幕政における京都と江戸／慶長・元和期における政治と民衆／町の成立と町規制／京都における十人組・五人組の再検討 など

▶A5判・390頁／本体7,800円(税別)

ISBN4-7842-1034-2

## 京・近江・丹後大工の仕事 近世から近代へ

建部恭宣著

江戸時代から明治・大正にかけての京・近江・丹後における大工の活動状況を明かした労作。寺院造営における大工の仕事、就労状況、町大工の構成と作事棟梁制度の変遷、幕末の藩士住居の図面と用材など、史料の精査に基づいて大工活動の実態と近代化への歩みを考察する。

▶A5判・270頁／本体5,500円(税別)

ISBN4-7842-1282-5

## 近世琵琶湖水運の研究

杉江進著

近世における堅田の変貌、後背地との結びつきにより分けられる三地域(「諸浦の親郷」(堅田・大津・八幡)・湖北四ヵ浦・彦根三湊)の対抗関係、船の航行と船支配の関係という三つの視点を基軸に、近世前期琵琶湖水運の構造と特質、廻船規定、諸浦の盛衰を取り上げて論究する。

▶A5判・464頁／本体9,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1551-5

## 一八世紀日本の文化状況と国際環境

笠谷和比古編

日本の18世紀の文化的状況はいかに形成され、それらは東アジア世界、また西洋世界までふくめたグローバルな環境下で、いかに影響を受けつつ独自の展開を示したか。多角的にアプローチした国際日本文化研究センターでの共同研究の成果23篇。

▶A5判・582頁／本体8,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1580-5

## 幕末・維新の西洋兵学と近代軍制

竹本知行著

大村益次郎とその継承者

幕末・維新の動きの中で、先人たちは国際環境に自らをどのように位置づけ、どのように西洋から兵学を受容し軍制を確立していったのか——。日本という近代国家形成と国民形成の推進に大きな役割を果たした軍隊の創設の軌跡を、大村益次郎とその遺志をついだ山田顕義らの動向にたどり、その政治史上の特性を探る。

▶A5判・340頁／本体6,300円(税別)

ISBN978-4-7842-1770-0

## 日本産業技術史事典

日本産業技術史学会編

「日本の近代」の理解において不可欠でありながら、従来必ずしも系統的・組織的に実施されてこなかった日本の産業技術史研究を23の大項目に分け、関連項目を344の小項目としてとりあげた、日本産業技術の流れを把握することができる「読む事典」。

▶B5判・550頁／本体12,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1345-0

## 京都の歴史災害

吉越昭久・片平博文編

歴史学、京都を襲ったさまざまな災害をとりあげ、地理情報システム(GIS)などによる災害範囲や規模の復原、特徴や被害発生メカニズムの社会的背景の分析、また人々の取り組みなどを論じる。地理学、歴史学、工学など多様な分野の研究者による、立命館大学G-COEプログラム「文化遺産の防災」プロジェクトの成果。

▶A5判・322頁／本体2,300円(税別)

ISBN978-4-7842-1643-7

## 近世の公家社会と京都

笠谷伸宏著

集住のかたちと都市社会

公家町の形成・変容過程の解明を通じて、公家町を中心とした京都の都市空間の特質を明らかにするものである。あわせて、都市における公家の集住・居住形態、および町方社会との関係を検討し、近世京都がいかなる都市社会構造を形成していたのかを論じる。

▶A5判・392頁／本体8,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1795-3

## 近世京都の町・町家・町家大工

日向進著

「仮屋」のようにさりげなく組み立てるための工夫を積み重ねてきたのが京都の建築的伝統であった。本書は、こうした近世における京都町家の形成と展開の過程を事例として、町家が住居形態として一定の類型を保持し、存続してきた背景としての建築的、技術的、社会的、都市的な要因の解明を試みる。

▶A5判・340頁／本体7,800円(税別)

ISBN4-7842-0984-0

## 近代地方政治と水利土木

服部敏著

淀川・安威川・神崎川の水利構造の変遷と分析、沿岸住民の治水運動と中央・地方議会と政党の対応、近代化の意味と中央集権的近代国家の性格を地域史の視座から問う。【内容】近代国家の成立と水利慣行／水利組合の成立とその機能／淀川改修運動と地方政治の動向／日露戦後の農事改良政策と水利問題

▶A5判・400頁／本体6,600円(税別)

ISBN4-7842-0873-9

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。  
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。